

世界史探究

第1問 次の文章の（ 1 ）～（ 13 ）にあてはまる語を記せ。

581年、北周の武将であった（ 1 ）は、隋を建国した。彼は589年に南朝の陳を滅ぼし、およそ300年続いた中国の南北分裂時代を終わらせ、科挙の創始など内政に力を注いだ。しかし、次の皇帝（ 2 ）が実施した3回におよぶ高句麗遠征の失敗が各地の反乱を招き、山西を拠点としていた（ 3 ）が隋を滅ぼし、唐を建国した。

父（ 3 ）を幽閉し、皇太子と弟を殺害して即位した太宗・李世民は、諸制度を整え内政の基礎を築く一方、東突厥などの諸勢力を撃破し、対外的にも攻勢を強めた。東突厥をはじめとする遊牧集団は、太宗を遊牧民の君主である（ 4 ）とみなし、その支配を受け入れた。なお、中国の仏僧（ 5 ）が仏教経典の原典を求めインドに旅立ったのは、太宗の治世のことであった。

続く第3代皇帝（ 6 ）は、西突厥を破り中央アジアに進出する一方、東方では（ 7 ）と同盟を結び、高句麗と百濟を滅ぼし、王朝の最大領域を実現した。彼の治世の晩年には、皇后の（ 8 ）が政治の実権を握り、その後、彼女は中国史上唯一の女性皇帝として即位し、国号を周と改めた。

政治的な混乱を収束させたのは、8世紀初めに即位した第6代皇帝（ 9 ）であった。彼は、6世紀に始まった兵農一致の府兵制を廃止し、傭兵を用いる（ 10 ）を採用し、辺境には兵集団を管轄する節度使を置き、体制の立て直しをはかったが、力をつけた節度使は徐々に自立の傾向を強めていった。755年、そうした節度使の一人で、ソグド人と突厥人の血をひいた安祿山とその盟友（ 11 ）に率いられた集団が大規模な反乱を起こした。反乱自体は、唐の要請を受けたウイグルの援助によって鎮圧されたが、節度使はますます自立を進め、軍閥化していった。

唐は、夏・秋2回の徴税を行う（ 12 ）、塩の専売などを実施して財政再建をはかり、なんとか体制を維持した。しかし、9世紀後半、塩の密売人であった黄巢が起こした農民反乱が全国に広がるなか、もともと反乱の指導者の一人であ

り、後に唐の節度使となった（ 13 ）が後梁を建て、唐は滅亡した。

第2問 次の文章の（ 1 ）～（ 12 ）にあてはまる語を記せ。

1206年、モンゴル高原で開かれた（ 1 ）と呼ばれる集会によって即位したチンギス＝カンは、東方では金に打撃を与え、西方では中央アジアのトルコ系イスラーム王朝（ 2 ）を滅ぼすなど、ユーラシア各地に大規模な遠征を行った。彼の後を継いだ子や孫たちも、互いに権力闘争を繰り返しながらも征服活動を継続し、巨大なモンゴル帝国が形成された。

中央アジアには、チンギスの次子とその子孫を君主とする政権（ 3 ）が成立した。この政権は14世紀中頃になると東西に分裂するが、諸勢力の抗争の中からティムールが台頭した。ティムールは、ユーラシア各地に遠征を繰り返した。北方では、チンギスの長子とその子孫が統治する（ 4 ）を攻撃、南方では南アジアへ侵入し、デリー＝スルタン朝の一つトゥグルク朝に壊滅的な打撃を与えた。また西方では、チンギスの孫（ 5 ）が建てたイル＝ハン国滅亡後のイラン・イラク方面を制圧し、1402年の（ 6 ）の戦いでは、オスマン帝国を撃破し、第4代皇帝（ 7 ）を捕虜とした。モンゴル帝国の復興を目指していたティムールは、さらに、中国の王朝（ 8 ）を討伐するための東方遠征に出発するが、その途上に中央アジアのオトラルで死去した。

ティムール朝の時代、セルジューク朝やイル＝ハン国で発展したイラン＝イスラーム文化と、中央アジアのトルコ＝イスラーム文化とが融合し、様々な分野で高度な文化が生まれた。首都（ 9 ）には、巨大なモスクやマドラサが建てられ、王朝の庇護のもと、ペルシア語やトルコ語による文芸活動が盛んに行われた。自然科学では、王朝の第4代君主（ 10 ）が首都に天文台を建設したことが知られている。

しかし、ティムール没後の王朝は、君主の位をめぐる一族間の争いが絶えず、16世紀初頭、シャイバーニーに率いられたトルコ系の遊牧民（ 11 ）によって滅ぼされた。その後の中央アジアでは、（ 11 ）が、（ 12 ）、ヒヴァ、コーカンドを中心に政権を築いたが、19世紀後半になると、南下政策を進めるロシア帝国の保護下に組み込まれた。

第3問 次の文章の（ 1 ）～（ 12 ）にあてはまる語を語群から選び、また下線部の設問に答えよ。

イベリア半島は地中海世界では西端の周辺地域であった。しかし、ヨーロッパとアフリカを結ぶ地政学的な重要性から古来多くの民族が通過し、諸国家の命運を左右してきた。また、近世になると（ 1 ）を隔ててアメリカ大陸とヨーロッパ、アフリカ大陸を結びつけ、世界の一体化を担う重要な役割を担うこととなった。

古代のイベリア半島には東地中海から来たギリシア人と（ 2 ）人が植民市を建設して競ったが、北アフリカの（ 2 ）人植民市から成長した商業都市国家カルタゴが西地中海の覇権を握った。前3世紀の最初の（ 3 ）戦争で新興勢力のローマに敗れたカルタゴはイベリア半島で兵を蓄え、A アルプスを越えて北からイタリアに進撃し、前216年カンナエ（カンネー）の戦でローマ軍団を打ち破った。ローマは長期戦でこの攻勢をしのぐ一方、イベリア半島を制圧し、属州ヒスパニア（スペインの語源）とした。ローマの将軍スキピオは前202年、北アフリカのザマの合戦でカルタゴを破り、二度目の（ 3 ）戦争もローマが勝利した。前146年、三度目の（ 3 ）戦争でカルタゴを滅ぼしたローマは西地中海に覇権を確立し、イベリア半島はその重要な拠点となった。五賢帝時代の（ 4 ）帝はローマ帝国最大版図を達成した皇帝であるが、ヒスパニア属州出身であり、続くハドリアヌス帝も、帝政後期のテオドシウス帝も同属州出身であった。

西ローマ帝国が崩壊すると、イベリア半島には（ 5 ）人が移住して王国を建設し、カトリックとローマ文化を受容して8世紀初頭まで独特の文化を形成した。711年にこの王国を征服したのは地中海南岸を西進してきたイスラーム教を奉ずる（ 6 ）朝軍であった。同王朝はシリアの（ 7 ）を本拠地としていたが、8世紀半ばにアッバース朝が興るとイベリア半島に逃れて自立した。これ以降同半島ではマグリブ地方と呼ばれる北アフリカ西北部の情勢と連動しながらイスラーム諸王朝が続くことになる。

一方、半島北部にはキリスト教諸王国が誕生し、徐々に南下してその領土を拡

大した。これを国土の再征服を意味する（ 8 ）と呼ぶが、当初の数百年間はイスラーム勢力とキリスト教勢力は共存し、必ずしも宗教によって敵味方が分かれるわけではなかった。しかし、東方で十字軍が起こり、教皇権が伸長して異端政策が厳しくなる一方、マグリブのイスラーム諸王国が内訌を繰り返すようになるにしたがって、次第にキリスト教勢力が半島南部に及ぶようになった。1479年にはそのなかでも強勢を誇る（ 9 ）王国とアラゴン王国が連合してスペイン王国が成立した。

B イベリア半島最後のイスラーム教王国ナスル朝がスペイン王国に滅ぼされた1492年は時代を画する象徴的な年で、同年（ 10 ）が（ 1 ）を横断して西インド諸島に到着した。また同じ年にスペインからユダヤ人が追放される一方、ネブリハによる（ 9 ）語文法が書かれた。これらは他民族を排除して国家言語を制定する近代国民国家への道を開くものであった。スペインは半島に残るもう一つのキリスト教王国（ 11 ）とともに、以降一世紀にわたって世界各地に植民地を形成して覇権を確立する。

16世紀後半になると、スペインはイギリスとの覇権争いに敗れ、以降はイギリスやフランスの後塵を拝することになる。しかし、その王位継承権をめぐる両覇権国家が争うなど、その後もスペインはヨーロッパの政治闘争の舞台となってきた。20世紀前半のファシズム台頭の時代にはナチス・ドイツとイタリアのファシスト政権の支持する（ 12 ）将軍と、これに抵抗する共和国軍との内戦が繰り返された。C スペイン内戦では英仏などが不干渉政策をとったため、各国の市民を中心とする国際義勇軍とソ連が共和国軍を支持したが、（ 12 ）将軍が勝利を収めることになった。

【語群】

アラム フェニキア 太平洋 ペルシア トラヤヌス ポルトガル
ユリアヌス バグダード 大西洋 西ゴート ムラービト
レコンキスタ リソルジメント カステイリャ アンダルシア
フランコ レオン ポエニ ウマイヤ カストロ コロンブス
ヴァンダル ヴァスコ＝ダ＝ガマ ダマスクス

【設問】

- A このときカルタゴ軍を率いた将軍の名を記せ。
- B ナスル朝の都の名を記せ。
- C スペイン内戦でドイツ、イタリア空軍の無差別爆撃を受けた都市で、ピカソがこの爆撃に抗議して同市の名を冠して描いた作品の名を記せ。

第4問 次の文章の（ 1 ）～（ 6 ）にあてはまる現在の国名を語群から
選び、また下線部の設問に答えよ。

バルカン半島は、古くからアジアからヨーロッパに向かう諸民族の行き交う回廊であった。中世以降はスラヴ人の多く居住する地域となったが、民族や宗教の入り混じった複雑な様相を呈している。たとえば、ドナウ川北岸にあって黒海に面した（ 1 ）は国名もローマ人の国という意味で、ローマ帝国属州ダキア以降の多様な経緯を経てラテン系の民族意識を持つ人々によって建てられた国家である。中世においてはワラキア、モルダヴィア両公国を形成していた。（ 1 ）とドナウ川をはさんでその南岸にあり、同じく黒海に面した（ 2 ）は今ではスラヴ化しているが、もともとはアジアから来たトルコ系遊牧騎馬民族に由来する。彼らの支配者はクルム＝ハンなど長くハンを称していた。（ 2 ）の西隣のバルカン内陸部で勃興し、中世後期に強国となったのが（ 3 ）で、これはスラヴ人の国家である。オスマン帝国にコソヴォの戦いで敗れてその支配下に入ったが、19世紀に独立するとロシアの後押しを受けてオーストリアと対立し、A 第一次世界大戦の火種となった。戦後はオーストリアに近いクロアチアやスロヴェニアなどとともに連邦国家である B ユーゴスラヴィア を形成したが、これは1990年代に内戦を経て解体した。

バルカン半島最南部のエゲ海を囲む半島と島嶼部に位置する（ 4 ）は古代の都市文明以来の伝統を誇り、その首都アテネは民主政の発祥の地としても有名である。（ 4 ）人はローマに支配されたが、やがて自らもローマ人として意識するようになる。（ 4 ）語を話し、キリスト教を受容してローマ人意識をもった人々によって継承されたローマ帝国が C ビザンツ帝国 であり、上述（ 1 ）～（ 3 ）の諸国家は黒海北岸の（ 5 ）ともどもその影響を強く受け、東方正教圏を形成している。（ 5 ）も、もともとはノルマン人の一派が北方のノヴゴロドについてキエフ（キーウ）に建国した公国に端を発し、これがスラヴに同化し、またウラディミル1世時代に正教に改宗した。

バルカン半島最奥部、パンノニア平原地帯を擁する（ 6 ）も中央アジアから来たマジャール人を中心とする国家で、現在でもスラヴ化していない。ザクセ

ン家のオットー1世にレヒフェルトの合戦で敗れて以降カトリックを受容し、王国を建設した。歴史的に西隣のオーストリアと関係が深く、近代にはこれと結んで二重帝国を形成していた。(6)は文化伝統の上では西方カトリック世界に近いが、オスマン帝国や同帝国から独立した諸国との関係からバルカン情勢に深く巻き込まれてきた。近代国家の国名を冠する民族がその国内のすべての住民を代表するわけではない。D 1989年に(1)で同国大統領の処刑にまで至った革命運動が起こったが、その発端は同国内に住む(6)系住民への抑圧政策にあった。バルカン半島では、このような紛争の火種は各地に点在する。

【語群】

ハンガリー ルシタニア ルーマニア アルメニア ギリシア
スロヴァキア ブルガリア ラトヴィア セルビア モルドヴァ
ウクライナ 北マケドニア

【設問】

A 第一次世界大戦勃発のきっかけとなったオーストリアの帝位継承者が暗殺された都市名は次のうちどれか。事件名ともなっている。

ボスニア サライェヴォ コソヴォ

B 第二次世界大戦で同国パルチザンを率い、戦後もソ連と距離を置く独自外交路線を取った指導者は次のうちどれか。

ティトー エンベル＝ホツジャ ナジ＝イムレ

C ローマに代わる同帝国の新首都の名を記せ。

D この大統領は次のうちどれか。

ホネカー アントネスク チャウシェスク